

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2774501155		
法人名	もみの木有限会社		
事業所名	もみの木のいえ		
所在地	大阪府泉佐野市羽倉崎3-8-5		
自己評価作成日	平成 30年 12月 6日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 12月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がもみの木のいえにて快適に過ごしていただけるよう、利用者一人一人の生活リズムに合ったケアを心がけ、医療機関等の協力もいただきながら、可能な限り希望に応えられるように努めている。また看取りケアにおいても、ご本人やご家族様の意向に添えるようなケアを検討し、葬儀を含めた最期のお別れについても、葬儀会社の協力の下、金銭的な面においても相談しながら、満足していただけるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の福祉に役立てたいとの思いで、代表者の自宅を提供・改造して運営しているグループホームです。ホームの名前「もみの木のいえ」には、冬でも青々と茂っている温かみのある木のようなホームでありたいとの思いが込められています。管理者以下職員は「明るく・楽しく・元気よく」の理念を共有し毎日のケアにあたっています。地域との交流も積極的に行い、管理者が地元で育っていることもあり、大勢の地域の方達に支えられています。地域住民も参加する餅つきは恒例になり、近所の子ども達も楽しみに待っています。地域交流の場を目的として開設した「おしゃべり広場もみの木」は、認知症のことで悩んでいる方の相談の場ともなっています。ホームは明るく家庭的で、時には職員の子どもが遊びに来て、利用者と一緒に過ごす温かい雰囲気です。計画作成担当者や職員体制の改革を行い、管理者はじめ職員が一丸となって利用者本位のサービスに向かう体制が整いました。「ホームの雰囲気が明るくなったのは、スタッフのおかげ」と職員に感謝する管理者のもと、生き生きとした表情でケアにあたる職員が支える利用者の暮らしは、温かく穏やかな雰囲気を作っているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	もみの木のいえとしてあるべき姿を共有し、その姿を目指しながら職員一人一人が意見を出し合い、快適な環境を作れるように努めている。	「明るく・楽しく・元気よく」を理念としています。管理者は職員の入職時に理念に込めた思いを伝えています。また常に「利用者にとって一番必要なことをするように」とも伝えています。計画作成担当者や職員体制の改革を行い、管理者はじめ職員が一丸となって利用者本位のサービスに向かう体制が整いました。	今後は、理念に沿って年度ごとに目標を立て、さらなる理念の実践に繋げてはいるかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議や事業所のイベント、町内のイベントにも相互に参加し、またおしゃべり広場もみの木においても、近隣の住人の方に来場していただき、将棋やカラオケを通じて、利用者様は地域の方々と交流させていただいている。	町内の餅つきや夕涼み会等、地域のイベントには積極的に参加しています。管理者が地元で育っていることもあり、大勢の地域の方々に支えられています。地域住民も参加する餅つきは恒例になり、近所の子ども達も楽しみに待っています。地域交流の場を目的として開設した「おしゃべり広場もみの木」は、月～金まで毎日開き地域の方も参加しています。広場は認知症のことで悩んでいる方の相談の場ともなっています。ホームでは、自由に一人で外出する利用者がありますが、地域の見守りも大きな応援になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	おしゃべり広場もみの木を通じて、近隣の方々から介護や認知症の相談をしていただくことも増えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、認知症や精神面の専門医への受診や薬の良し悪し、看取りについてお伝えしたりしながら、参加者様の経験談も伺わせていただくことも増えました。	町内会役員、民生委員、市職員、家族、利用者等の参加で2ヶ月毎に開催しています。会議では主に、ホームの状況、利用者の様子、行事等の報告を行い、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。認知症の話では、参加者から体験談を聞き、お互いが学ぶ機会となりました。平成30年9月の台風後は、今後の災害時の対策を参加者と共に考えました。認知症の啓発活動のひとつであるラン伴について情報提供し、参加した家族もいます。町内会長からは制度や新しい情報を教えてもらうこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターを中心に、地域の独居高齢者についての情報をいただきながら、もみの木のいえにて生活していただく為に、密に連絡を取りながら、協力させていただいている。</p>	<p>運営推進会議に市の担当者の参加があります。地域包括支援センターより、自宅での生活が難しくなってきた方の入所依頼があり、受け入れに際して市の担当者、地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、何が身体拘束になるのかを、会議等を通じてだけでなく、場面場面において、管理者より職員に伝えるようにしている。</p>	<p>身体拘束や虐待に関する研修を実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。玄関は施錠せず、自由に入出りできるようになっています。本人の希望があり、家族の同意のもと、一人で外出する利用者がいます。管理者は、身体拘束や虐待の要因のひとつと考えられる職員のストレスの軽減に向けて、職員同士のコミュニケーションを大切にしています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>何が虐待になるのかを理解してもらうだけでなく、利用者様の入居理由にも虐待事例があることも伝えながら、もみの木のいえで虐待を起こさないように取り組んでいる。また利用者様からの暴力等についても検討している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様一人一人の生活環境、金銭状況、家族関係、人間関係などを伝えながら、面会拒否等のケースもあり得ることなど、状況に応じて伝えながら支援させてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、ご家族を含む関係者の方々に説明をするように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの意見を、会議等を通じて職員とも共有し、反映させられるように取り組んでいる。	家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族訪問時に声かけし、言いやすい雰囲気作りを心がけています。家族からの意見や要望は、申し送りノートに記録し、職員間で共有しています。職員の言葉遣いについて家族からの意見があり、真摯に受けとめ、サービスの改善に活かすことができました。	今後、利用者の暮らしがわかる便りやニュース等を作成して家族に送付し、面会に来ることが難しい家族にも安心してもらうてはいかがでしょうか。利用者や職員の笑顔の写真が家族にも届くことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の業務中において出た意見を会議等を通じて検討し、改善するべきところは改善し、反映できるように努めている。</p>	<p>会議は月1回、全員が参加しやすい時間帯に開催し、ホームの運営やサービス向上について話し合っています。また、話し合いが必要な時は、随時会議を開き意見交換を行っています。管理者は職員が日常的に何でも話せる雰囲気作りを大切にしています。職員が目的を共有する職場環境は、離職者も少ない状況です。管理者は職員に、利用者との関わりを通して、仕事のやりがいを感じてもらおうように伝えています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>必要に応じて、個別に職員と話し合う機会を設けたり、処遇改善加算の説明時においても、もみの木のいえの給与体系がどのように設定しているのかも伝えたりしながら、快適な職場環境を作れるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員それぞれに必要な研修を受講してもらったり、資格取得のために必要な講座を紹介したりしながら、全職員が向上していけるように取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者の研修に参加したり、RUN 伴というイベントを通じて認知症啓発において様々な事業所と連携しながら、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、話を聞きながら思いを確認して、職員内でも情報を共有し、安心して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、困られてる事を伺いながら、体験入居等を通じて、もみの木のいえが出来る事をお伝えしながら、安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に起こりうる可能性をお伝えしながら、もみの木のいえでの生活が難しい場合も想定した上で、その際に検討すべきサービスをお伝えしたり、最終的にそのサービスを利用するまで支援させていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、自然な形で声をかけながら、協力してもらえるように取り組んだり、利用者様への見守りを他の利用者様にお願いするなど、みんなで支え合えるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族様に連絡し協力してもらいながら、利用者様に安心してもらえるように取り組んでいる。また看取り時においても、可能な限り最後まで一緒に居て頂ける様に働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来て頂けるように連絡を取り、数十年ぶりの再会を果たしてもらったり、自宅付近までご一緒させてもらったりしながら、話を聞かせてもらえるように取り組んでいる。	ホームでは、誰でも自由に訪問できる雰囲気大切にしています。入居して出会った職員の知人だった利用者や疎遠になっていた姉妹が、妹からの連絡で関係が継続できた事例等があります。その利用者が亡くなった際には、管理者が他県へ妹を迎えにいきました。地域交流の場であるおしゃべり広場での馴染みの人との出会いもあります。馴染みの人から利用者の昔ばなしを聞き、職員は、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せることの大切さを学んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置など、利用者同士の関係が良好になるように検討し、また相互に支え合える環境を作れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りでのサービス利用が多い中、その後も必要な連絡を取っている。また事務的な作業においても、ご家族が必要とする情報などがあれば、積極的にお知らせできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との話の中から、思いを汲み取り、他の職員からも聞いた事を皆で情報を共有し、思いを把握しながら検討している。	職員は、利用者に寄り添い、コミュニケーションの中で気づくことを大切に、ケアにあたっています。リビングでは、利用者と職員が話し合っている光景が普通になっています。日常の関わりの中での気づきや発見は、申し送りノートに記録し、職員間で共有しています。職員に「今後やってみたいことアンケート」を実施し、利用者の希望の実現を検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様の話を聞きながら、今までどんな暮らしをしていたのかを、分かる範囲で皆で把握し、入居されてからも出来る限り今までの暮らしをして頂ける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を把握し、一人一人の心身状態の変化に対応できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で問題点を話し合い、課題が出たらその都度話し合っているが、ケア会議はできていない。現状に即した介護計画のみ作成している状態。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは見直し前に実施しています。サービス担当者会議は全職員で行います。計画作成担当者は、「普段のたわいのない会話の中での気づき」や「職員の声も参考にする」ことを心がけて計画を作成しています。	今後は、職員が介護計画を確認・共有でき、介護計画にそったケアが実践できる工夫が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、変化があれば、個人記録に記入していき、会議で話し合い、実践していき、職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ニーズが生まれると、職員等から情報を聞きながら柔軟に支援し、その際は職員と情報共有している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のお祭りや行事などに参加したり、おしゃべり広場もみの木で将棋ができる参加者が来ると将棋をしたり、カラオケを楽しんだり、地域の方々と楽しむ機会がある。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診(かかりつけ医以外)は、ご本人の希望を大切にしている。かかりつけ医との関係も築きながら、適切なケアや医療を受けられるように努めている。</p>	<p>入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。受診の際には、本人の日常生活をよく知っている職員が付き添うこともあります。ホームの協力医の往診は2週間に1回です。週2回、訪問看護による健康管理を支援しています。職員と訪問看護師は、申し送り簿で情報の交換を行っています。看護師資格を持つ非常勤職員も配置しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問介護の際に、情報交換（薬の変更などの受診報告など）をし、助言なども頂きながら、主治医への報告も行っていただいている。緊急時は24時間対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院については、管理者を通じて医療関係者と連携を取っている。入院時は職員も面会にいき、状態の把握だけでなく、ご本人に安心して頂ける様に過ごしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、管理者を通じてご家族様へ状態や今後のケアをお伝えし、方針を確認している。ご本人の性格や状況を考え、ケアについても話し合っている。医療関係者とも連携し対応している。	重度化については都度、家族と話し合いながら対応しています。「重度化した場合及び看取り介護における指針」を作成しています。終末期に関しては、家族・医師・職員で改めて話し合います。協力医や訪問看護の協力を得て、ホームでの看取りを行っています。家族の希望があれば、ホームで葬儀を行い、みんなで見送ります。職員は看取りの経験から「今できることをやっといこう」と貴重な学びがありました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の連絡先、方法などのマニュアルを作成し、すぐに対応できるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練の実施、また地域の防災訓練にも参加させてもらっている。</p>	<p>火災・地震等の災害発生時マニュアルはあります。消防署立会いの下、またホーム独自の避難訓練は行えていませんが、地域の防災訓練に参加し協力関係はできています。今年の夏に花火大会を見るために車いす利用者を背負って屋上へ上りました。災害時も背負って屋上へ避難できることを確認しています。消防設備の点検時は使い方等教えてもらっています。平成30年9月台風による停電時には、ハイブリッド車からの電源を冷蔵庫につなぎ、電気を送ることができました。備蓄は水・食料品等準備しています。</p>	<p>平成30年9月の台風での対応を振り返り、災害発生時マニュアルを見直し、また、立地条件等から災害の影響を把握し対策を検討して、マニュアルを改訂されたらいかがでしょうか。年に2回の避難訓練を行うことが求められます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活リズムに対応したケアを行っている。時と場合に応じた言葉かけを行っている。	認知症に関する研修の中で、利用者の人権や尊厳に配慮する確認をおこなっています。日常のケアの中でのプライバシー保護についても、入浴・排泄などの具体的な場面について、職員間で確認しています。リビングでは、職員の利用者に寄り添った関わり方を見ることができます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるように声かけを行っている。強制ではなく、その方のペースに合わせた働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝や起床も含めて、一人一人のペースに合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は鏡を見てもらいながらケアを行っている。男性には髭剃り、女性には毛染めや化粧など、希望に応じて支援させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>料理の様子を見てもらったり、テーブル拭きや食器洗い、後片付けなど、無理をさせない程度に手伝って頂いている。</p>	<p>白色を基調とした清潔感のある対面キッチンに改修され、専門の職員が調理するおいしそうな匂いや音がリビングに広がります。メニューは職員が利用者に食べたいものを聞いて作っています。買い物は近くのスーパーへ利用者と一緒に行っています。食器は陶器やガラスの器を使用して、利用者はスナックエンドウや玉ねぎの皮むき、食器洗いなどできることを手伝って、自宅で暮らしている雰囲気です。各テーブルで利用者は職員の声かけや介助を受けながら一緒にゆっくり食事を楽しんでいます。朝食は、利用者の起きる時間に合わせ食べてもらっています。おやつにみんなでパン作りをすることもあります。誕生日外食等の楽しみもあります。苦手なメニューの聞き取りもしています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分摂取はこまめに声かけをし、飲んで頂くように支援している。好きな食事をメニューに取り入れたりしながら、楽しみを持てる献立や食べて頂ける様に工夫をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアについては実施できていないが、夜間の義歯洗浄や起床時の口腔ケアは行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握したり、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄状況を細やかに記載して自立支援に活かしています。職員は利用者の排泄パターンに応じてさり気なくトイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。排便間隔がひと目でわかる記録をとり、食事や飲み物の工夫で、「薬に頼らない、トイレでの排便」を大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂っていただき、牛乳を飲むと排便できる方もおられるので、牛乳等の乳製品を摂取して頂いたり、歩行等で排便を促しながら対応している。また服薬の増減も体調を見ながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日などを決めずに、体調面などを考慮しながら、入浴可能か検討し、声をかけて入浴して頂いている。	毎日入浴が可能です。利用者は週に2～3回入浴しています。入浴が楽しくなるように入浴剤を使用したり、季節の柚子湯をしています。好みのシャンプーを持ち込んでいる利用者もいます。入浴を好まない利用者には、特定の職員が声をかけたり、午前中の穏やかな時に声かけするなど、工夫して気持ちよく入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて昼寝をされたり、ソファでくつろがれたり、一人一人自由に過ごしていただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬については、ある程度把握しているが、副作用まで把握できていない。新たに処方された薬については、各自症状の変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋やカラオケが好きな方には、おしゃべり広場もみの木に行って頂いている。自由に散歩にも行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい方には、買い物に行ってもらったり、希望があれば対応させて頂いている。先日、お孫さんの結婚式へ行かれた方は、台風の日だったが、お孫さん始めご家族様もご本人様も、大変喜ばれていました。	将棋の好きな利用者はひとりでおしゃべり広場へ、散歩コースが決まっている利用者は地域の皆さんの協力のもと一人で近くを散歩しています。日ごろの買い物、初詣、花見、外食、秋まつりの見学、紅葉狩り、近くの公園へピクニック、地域の餅つきに行く等外出の機会があります。孫の結婚式に職員と一緒にいった利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で所持されてる方もおられる。こちらで管理されている方でも、外出希望時には、買いたい物を買っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	今、電話をかけたりする利用者様はおられませんが、以前は自分でかけられたり、こちらから繋がせて頂いてお話をしてもらったりしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>屋外が気になったり、周りの利用者様の行動が気になったりする方もおられるので、フロア内の空間を必要に応じて変えたりしている。</p>	<p>一般家庭の住宅を利用者が生活しやすいように改修し、これまで一般の家庭として持っていた温かみやくつろぎの空間を活かした造りのグループホームです。玄関付近のスペースに季節の花や野菜を植えてあり、訪ねやすい雰囲気です。リビングは玄関から見渡せる開放的な作りになっています。壁には季節の飾りつけが工夫され、ソファや収納を兼ねたスツールが置かれ、寛ぐスペースとなっています。高さを調節できるテーブルを置き、利用者に適した高さになっています。リビングと対面式のキッチンから、ご飯の炊ける匂いがし、食事の準備の音が聞こえ、家庭的な雰囲気です。リビングで寛ぐ利用者の表情は穏やかで、温かい雰囲気が感じられます。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビを観たり、他の利用者様と過ごしたい方など、一人一人に合った居場所作りをしているが、課題もある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使われていた物や仏具など、馴染みの物を持ってきていただいている。	居室入り口には、障がい者施設の方が作った表札とおしゃべり広場で作ったリースがかけられ、利用者一人ひとりの居室がわかりやすくなっています。室内のベッド、エアコン、ロッカーはホームで用意しています。利用者はテレビ、家具、写真、位牌、ぬいぐるみ、賞状等なじみの物を持ち込んでいます。まぐらの置き方にこだわりのある利用者は枕を二つ並べる等、個別性を尊重しています。各居室は利用者が居心地よく過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の視点や視野を感じながら、可能な限り自由に活動していただける空間を作れるように努めている。またセンサーを設置し、必要最低限の支援をしながら、ご自身の能力を発揮していただけるように努めている。		